横浜天声キリスト教会　週報　第18巻11号（No.683）　2023年3月12日

礼拝プログラム　※主の導きにより変わる事があります

黙祷　イザヤ49:16-17 ・・・・・・・ 御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
*賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21番　力の主を
*交読文　・・・・・・・・・・・・・・・・ 37番
*使徒信条　・・・・・・・・・・・・・・会衆一同
*頌栄　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177番　御霊よ、降りて
礼拝のための祈り　・・・・・・・ 成田エクレシア：朴執事　天声：小林伝道師
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89番　シャロンの花
メッセージ　・・・・・・・・・・・・・・ 私達のホームポジション(雅歌 8:1-5)
御言葉を適用する祈り　・・ 会衆一同
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 409番　渇(かわ)きあえぐわが魂は
幸せと成功の宣言文 ・・・・ 会衆一同
献金感謝の祈り　・・・・・・・・ パスター
報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・
*主の祈り　・・・・・・・・・・・・・・ 会衆一同
*祝祷　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ パスター

天声教会は

・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。（ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5）
・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。（ローマ 10:10）
・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。（ローマ 10:10）
・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。（第二テサロニケ 3:5）

祝福の御言葉（下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい）

主のかいなよ、さめよ、さめよ、力を着よ。さめて、いにしえの日、昔の代にあったようになれ。ラハブを切り殺し、龍を刺し貫いたのは、あなたではなかったか。海をかわかし、大いなる淵の水をかわかし、また海の深き所を、あがなわれた者の過ぎる道とされたのは、あなたではなかったか。主にあがなわれた____は、歌うたいつつ、シオンに帰ってきて、そのこうべに、とこしえの喜びをいただき、____は喜びと楽しみとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る。
「わたしこそ____を慰める者だ。____は何者なれば、死ぬべき人を恐れ、草のようになるべき人の子を恐れるのか。天をのべ、地の基をすえられた____の造り主、主を忘れて、なぜしえたげる者が滅ぼそうと備えをするとき、その憤りのゆえに、常にひねもす恐れるのか。しえたげる者の憤りはどこにあるか。身をかがめている____は、すみやかに解かれて、死ぬことなく、穴にくだることなく、その食物はつきることがない。わたしは海をふるわせ、その波をなりどよめかす____の神、主である。その名を万軍の主という。わたしはわが言葉を____の口におき、わが手の陰に____を隠した。こうして、わたしは天をのべ、地の基をすえ、シオンにむかって、あなたはわが民であると言う」。（イザヤ 51:9−16）

メッセージ概要

雅歌書は、男性と女性の愛の関係や結婚、夫婦生活における喜び、楽しみ、また葛藤が対話形式で表現されている。結婚は、神様の「生めよ、増えよ」という使命を全うして行くため、男性が女性に、また女性が男性に、これから自分は生涯（いのち）をあなたと、またあなたと共に築いて行く新しい家のために捧げ、生涯を共に全うして行きます、という、聖なる契約である。雅歌書の男女は8章では既に色々な所を通って成熟した段階にあり、今回この箇所から成熟した男女のあり方と、キリストと教会の本来的な姿を学びたい。

1節で、花嫁は花婿に、同じ乳を吸った兄弟のようになってほしい、と願っている。主にある夫婦は、親密な兄弟姉妹のようになっていく事が望ましい。同じ教会から、同じ御言葉の乳で、同じ霊的な養いを受け、互いに尊敬し、主にあって時には教え、戒め、勧めつつ、互いを建て上げていくような。なお、夫婦が主にある兄弟姉妹のようになるとは、相手を性的な相手として見れなくなるという事ではない。むしろ逆である。
3節では、花嫁の頭が花婿の左腕の上に乗っかっている状態、つまり、男性の左腕で腕枕されて、右手で覆われている状態だ。私達・キリストの花嫁である教会のホームポジションも、そうである。私達の「頭」は、いつもキリストの腕の上に支えられ、彼の義の右の手で覆われているべきであって、私達が「頭」となってキリストを導くものではない。いつもキリストを右に置くべきであって、私達がキリストの右に出るべきではない。
4節の花嫁の言葉は、原文は、疑問代名詞「メー」がついている。『*なぜあなたは、愛を「ゆり起こし（ウール）」たり「かき立てたり（ウール）」しなければならないのですか？*』と。つまり、愛は、ゆり起こしたりかき立てたり、するものではない。夫婦生活でも、霊的生活でも。　彼女がまだ結婚して間もない、未熟だった頃、心が「かき立てられ（ウール）」、夜、仕事から帰ってきた夫を締め出すような事を、ホワホワした感覚の中で彼女は実行したが、それが元で、ひどい目にあうという経験をした(5章)。だからエルサレムの若い娘たち、惚れた腫れたといった感情は、揺り動かしたりかき立てたりして、起こすものではありません、そのようなものは、自然に沸き起こって来るのに任せるのが一番ですよ、と。これは、主と私達の関係も同じである。
主に対して、わざわざ扇情的に感情をかき立てに行くのではなく、むしろ、日常生活の中で主と交わり、日頃の何気ない仕草の中で、主に対する愛の表現を自然にする、という日常を積み上げて行く。もし、かき立てられるような感情が出てくるなら、自然に任せるのがいいのだ。愛がかき立てられているなら「いい」状態で、かき立てられていないなら「なまぬるい」「冷えている」という思いは、偽りである。もし夫婦愛がいつも掻き立てられていたら、大変である。むしろ御国における男女のカップルは、同じ御言葉の乳で養われ、同じ教会の庭から同じパンを、同じぶどう酒をいただくという、兄弟姉妹のような関係こそ望ましいのだ。

『*りんごの木の下で、わたしはあなたを呼びさました。あなたの母上は、かしこで、あなたのために産みの苦しみをなし、あなたの産んだ者が、かしこで産みの苦しみをした。*』(5節)　「呼び覚ました」はウール（立つ、興奮する）のピエル能動態「断じて＊＊する」。つまり彼女は、りんごの木の下（彼の腕にくるまれた状態 2:3）で、彼を断じて奮い立たせた。そこは女性が産みの苦しみをする所、いのちを生み出すところ。
女性が男性の腕の下という「ホームポジション」で男性を奮い立たせる。その行為には愛の親密さを全身で感じるよろこびがあるが、ここで反復強調されている動詞は「ハバル(生み出す,身もだえする,労苦する)」である。新しいいのちを宿し、産みの苦しみをしつついのちを増やしていく。母の代も、そのまた母の代も、そのように続けて次世代を紡ぎ、いのちを継承して来た。なぜ男女がいるのか。なぜ結婚が存在するのか。それは彼らが親元を離れ、ふたりは一つとなり、神を中心としたいのちを産んで増やして行くためなのだ。

私達・教会も同じである。あのりんごの木の下で、すなわち、十字架の木につけられたキリストの脇腹というホームポジションで、キリストの腕に包まれ、頭を支えられつつ、「さめよ、さめよ（ウール、ウール）、力をまとえ。主の御腕よ。さめよ。昔の日、いにしえの代のように。ラハブを切り刻み、竜を刺し殺したのは、あなたではないか。」(イザヤ 51:9)と、力強いキリストの助けを呼び覚ますのだ。奮い立つのは私達の分ではない。キリストに奮い立っていただき、私達はキリストにあるいのちを、生みの苦しみをしつつ、生んで増やして行くのだ。それは、キリストの愛を肌身で親密に感じる、甘い経験である。イエスの愛にしっかり根ざし、この世の伴侶とも、まことの花婿キリストとも、愛の関係をさらに強く大きく深めていく私達でありますように！

お祈りしていただきたい事がありましたら、以下にお書きの上、教会へお持ち下さい。

集会案内

主日礼拝（日曜）

日本語礼拝	11:30 開始
交わり	13～14 時
English Service	14 時半開始

日々の集会

月～金	早天祈祷会	5:00～
火・木・金	賛美と祈りの集会	13:00～
火～木	夜の祈祷会	19:00～

水曜礼拝

1 部	13:00～
2 部	19:00～

金曜祈祷会 19:00～

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → youtube.com/c/横浜天声キリスト教会

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6 番 B 出口を出てまっすぐ徒歩 5 分
JR・関内駅より徒歩 10 分
京急線・日ノ出町駅より徒歩 10 分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1F がファミリーマートになっております。

聖書メッセージをメールでお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！

第 18 巻 11 号　　2023 年 3 月 12 日

横浜天声キリスト教会

礼拝　週報

〒231-0058　　パスター：　林和也　川合ゆきえ
神奈川県横浜市中区弥生町 2-17　ストークタワー大通公園 I-201
TEL/FAX：　045-326-6211
Homepage：　http://voice.of.christ.yokohama/
email：　ephes_03-tensei@yahoo.co.jp